



三郷駅前
まち育て
プロジェクト

REPORT BOOK 5

レポートブック5

お問い合わせ

市役所三郷駅周辺整備推進室 TEL: 0561-76-8182

🌐 <https://35project.com/>

▶ 三郷駅前まち育てプロジェクト

✕ @35proj

📘 <https://www.facebook.com/groups/35proj>

📷 @35friends.owariasahi

※Instagramは35フレンズが制作・運営をしています。



35フレンズ
登録フォーム



WEBサイト



FaceBook

2026年3月15日発行

©三郷駅前まち育てプロジェクト/尾張旭市役所/愛知県立芸術大学/三郷駅前地区市街地再開発組合/株式会社アール・アイ・エー



プロジェクトリーダーからのごあいさつ

尾張旭市と愛知県立芸術大学が協定を締結し、2021年に活動を開始した三郷駅前まち育てプロジェクトのミッションは、三郷の駅前再開発を含む周辺エリアの価値を高めることです。「あるまちを見て、住んでみたい、住み続けたい、居心地がいい、わくわくすると感じるのは、住人がとことんそのまちを楽しんでいる様子に出会った時である」という考えから、このエリアを自分の居場所とし、まちを楽しむ主体=楽しませる主体である市民に対し、まちの未来や価値を考える機会を提供しつつ、一人一人の個性や感性や興味関心が、どのようにまちの幸福に繋がっていくのかを共に考え、多様な試行錯誤を推進していきます。成功した他事例をテンプレートにしてはめ込んでゆくような方法ではなく、個性的な市民との対話と「よし、やってみよう」という市民の主体性から、このまちらしいまちづくりモデルが誕生することを目指しています。

三郷駅前まち育てプロジェクトリーダー
水津 功 教授

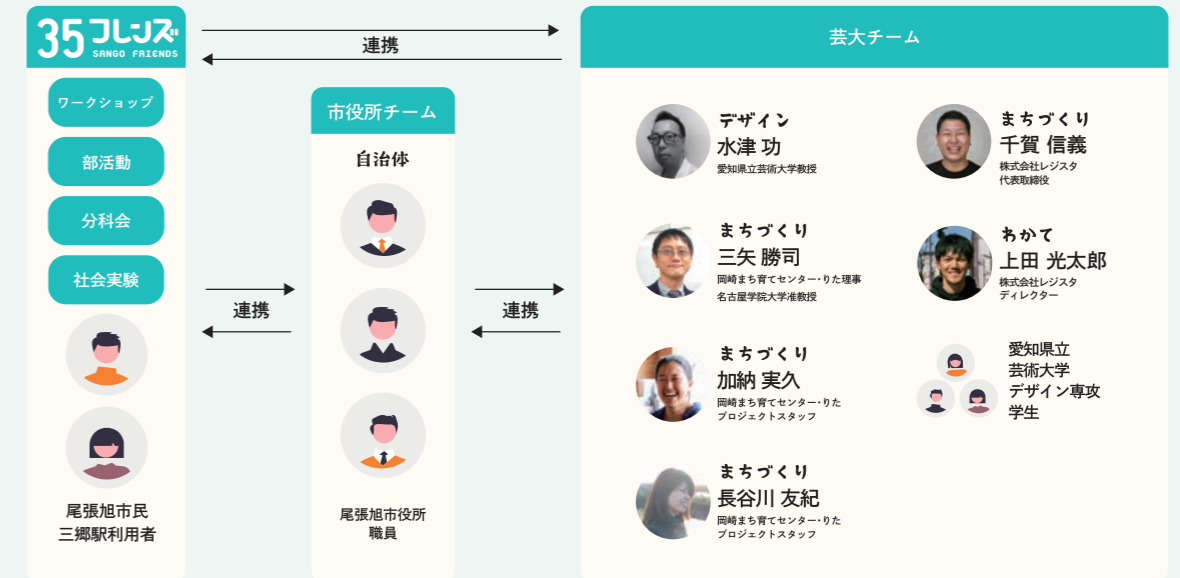


目次

- ごあいさつ/目次 p2
- 三郷駅前まち育てプロジェクトとは p3
- 特集：-35Fes- p4~7
- 35 フレンズの活動紹介 p8,9
- 三郷駅前まち納め感謝祭 p10
- 中長期ビジョン/プロジェクトへの参加方法 p11

三郷駅前まち育てプロジェクトとは

プロジェクトの支援体制



三郷駅前まち育てプロジェクトは、愛知県立芸術大学美術学部デザイン専攻の水津教授を中心に、市民参加型まちづくりの専門家である名古屋学院大学の三矢准教授、岡崎まち育てセンター・りた、面白いを共創する企業レジスタらによる芸大チームと共に企画運営しています。また、学識経験豊かな専門家のアドバイスやサポートを受け、まちの見方、考え方、作り方を学びながら、このまちの暮らしの主人公である市民（35フレンズ）の活動や意思決定を支援しています。



特集：35Fes - パーソナル屋台 - ①

35Fes の概要

2025年10月25日(土)に三郷駅周辺をフィールドとした「35Fes」を開催しました。本取組は、2026年度以降の駅前再開発工事を見据え、市民が自分の「好き」や「得意」を持ち寄り、公共空間でどのように展開できるのかを検証する社会実験です。会場は、愛知県森林公園、三郷第七駐輪場、CiiNA CiiNA 尾張旭(シーナシーナ)、35スタジオの4エリアで開催しました。

今回の中心となったのは、35フレンズが企画した「パーソナル屋台」です。市民が得意なものや好きなものを凝縮させた小さな体験・展示・遊びを、それぞれが持ち寄り運営しました。

屋台の内容は、工作やミニゲーム、アート制作、地域素材を使ったワークなど多様で、特に小学生を中心とした家族連れの参加が目立ちました。

※詳細はP.7をご覧ください。

全体コンテンツ

愛知県森林公園、三郷第七駐輪場、CiiNA CiiNA 尾張旭、35スタジオの4エリアで、計18件以上の多様なパーソナル屋台を出展しました。ボードゲーム、本格コーヒーの提供、AI体験、カポエイラ楽器体験など、ジャンルを超えたコンテンツが集結。スタンプラリーによる広域な周遊促進や、地域の秋祭りとの有機的な連携により、多世代が交流する活気ある都市空間が創出されました。



切符DM・スタンプラリー

参加記念の「切符DM」の配布や、来場者の周遊を促す仕掛けとして「スタンプラリー」を実施しました。コンテンツ体験ごとに渡される切符DMはプロジェクトの周知を担い、スタンプラリーでは全4拠点のうち2箇所以上を巡った方に、森林公園で使える「ソフトクリーム券」をプレゼント。この仕組みにより、駅周辺エリアから森林公園まで、まちぐるみの回遊と賑わいが生み出されました。



A 愛知県森林公園

愛知県森林公園のパーゴラ下を拠点に、自然環境と調和する社会実験を実施しました。物々交換、ボードゲーム、お琴やヴァイオリンの演奏、カポエイラ楽器体験など、穏やかな空気感に寄り添うコンテンツを展開。滞在時間の長い家族連れが多く見られ、休息と交流が共存する場を形成しました。駅からの歩行者導線の重要性を再認識し、将来的な回遊性向上への期待が寄せられる結果となりました。



積み木をするパーソナル屋台

B 「三郷第七駐輪場」

「三郷第七駐輪場」では、遊びと創造性を軸とした空間創出を行いました。牛乳パックパズル、似顔絵制作、モルック体験、廃材を活用した工作など、多世代が参加可能なコンテンツを配置。地域の秋祭りとも密接に連携し、35フレンズと地域住民が協力し合い、日常の風景が創造性と笑顔の絶えない広大な遊び場へと変貌を遂げました。市民の主体性が最も顕著に現れた賑わい拠点としての役割を果たしました。



似顔絵制作のパーソナル屋台

C CiiNA CiiNA 尾張旭

CiiNA CiiNA 尾張旭では、こだわりのコーヒー提供や、猫への愛を語り合うコーナー、生成AIを用いた体験型タレント名鑑、墨汁での絵付け体験など、知的好奇心を刺激する屋台が登場しました。また、悩み相談など対話を通じて深く繋がる場も創出。お買い物ついでにふらりと立ち寄れる、まちの温かな「かかわりしろ」が形になりました。



どんぐり工作のパーソナル屋台

III 35スタジオ

おいしい紅茶のまち尾張旭市にちなみ、紅茶を美味しく飲むための場を提供する企画を行いました。拠点となる「35スタジオ」での提供に加え、特定エリアへの「出張TEA room」を展開し、テイastingや茶菓子の提供、オリジナルスリーブ作成のワークショップを実施しました。芝生マットや既存備品を活用した空間づくりを通じ、多くの参加者に楽しんでいただきました。



特集：35Fes - パーソナル屋台 - ②



今回の35Fesで会場を彩った個性豊かな屋台。その根底には、マイパブリック(パーソナル屋台)という考え方があります。マイパブリックを三郷のまちで開くため、約半年間にわたるさまざまなワークショップを通し三郷駅やその周辺のまちに向き合い、どのようなマイパブリックをつくるのかを考えてきました。

マイパブリック・パーソナル屋台とは？

「マイパブリック (パーソナル屋台)」は、建築コミュニケーター・田中元子氏が提唱する一つの考え方です。一人ひとりの「やってみたい」「伝えたい」という思いを、パーソナル屋台という小さく開かれた場で社会にひらく試みです。参加者が自分のテーマを持ち寄り、対話や表現を通して人とゆるやかに繋がります。自分が好きなことで他者に貢献する経験を通じて、身近な場所に“わたしの公共(マイパブリック)”を育てていく活動です。



筆と墨を使った制作のパーソナル屋台



物々交換のパーソナル屋台

35Fes 開催報告

35Fes 当日の各会場の様子をご覧ください。



公式 YouTube

ワークショップの様子や過去の35Fesの様子をご覧ください。
<https://www.youtube.com/@35project>



35FESへの道のり

35Fesの本番に向けて、5回のワークショップを通して準備を進めていきました。

01 キックオフ



2025年度の活動は、東部市民センターでのキックオフから始動しました。今年度のテーマ「パーソナル屋台」の意義が語られ、市民が自ら公共空間を使いこなすビジョンを共有。参加者はそれぞれの「好きなこと」を書き出し、それをどのようにまちに開いていくか最初のアイデアを出し合いました。ここから三郷を舞台にした、約半年間にわたる挑戦の幕が上がりました。

02 フィールドワーク



キックオフで語られた35フレンズそれぞれがやってみたいアイデアをもとにフィールドワークでは、三郷駅周辺で実際にパーソナル屋台を展開できそうなスポットを探しました。3つのエリアに分かれて、「ここならできるかも」「ここはちょっと小さいかもね…」とグループで話しながら、まちめぐりをしました。



03 企画ワークショップ1



「企画構想づくり」として、フィールドワークを踏まえ出展場所の確定とグループづくりが行われました。場所の特性を活かした屋台構想を練り上げ、先生方との個別相談を通じて内容を具体化。後半には参加者の意見交流の場として「35おつまみトーク!」を開催し、パブリックと私を繋ぐ「マイパブリック」の概念を共に学びました。フレンズ同士の結束とワクワク感を高める重要なステップとなりました。

04 企画ワークショップ2



「実行計画づくり」として、屋台の実施に向けた具体的な手順を整理しました。個々の屋台にキャッチコピーを付け、必要な備品や手順をワークシートに集約。宣伝方法についても議論を重ね、事務局からのフィードバックを通じて企画をブラッシュアップ。単なる出店ではなく、まちの価値を向上させるエリア戦略としての視点を全員で再確認しました。

05 作業ワークショップ



本番を1ヶ月後に控えた、最終的な実行計画の共有と詳細なシミュレーションを行いました。事務局からの全体スケジュール伝達に加え、各チームの進捗や備品調達、雨天時の対応策を一つひとつ確認。実際に屋台の試作品を囲んで使い勝手を検証するなど、現場を意識した総仕上げを実施。成功に向け、チームの垣根を超えた協力体制を強固にしました。





35フレンズの活動紹介



35フレンズの今年度の活動

「三郷駅前まち育てプロジェクト」が始まり5年が経ちました。駅前再開発を核として周辺が魅力的な地区になるには、市民の発想と実践を再開発エリア内外で持続的に展開する必要があります。そこで私たち35フレンズは、再開発が完了する前から市民的实践を積み上げてスキルを蓄積しています。まちに定着してきた主な活動を以下に紹介します。岐阜県各務原市の地域創生をヒントに自発的に生まれた「たまりば35（思いのある市民が緩やかに集い、実践に向けたヒントを得る場）」。

駅前の利便性を活かして市民同士のおすそ分け（服や本など）を活性化する「お福分け」。「駅前に自習室を作ろう！」という提案から始まり、駅前商業施設をお借りして実現した「まなびば35」。



各活動の内容



たまりば35

周辺住民が気軽に立ち寄れる場をめざす「たまりば35」は、木曜夜に35スタジオで開催しています。各自が飲食を持ち寄り、出入り自由なスタイルで、似顔絵などのワークショップや、本の読み聞かせ、怪談話、ボードゲームを皆で楽しむなど、特にテーマを設定せず世間話に花を咲かせています。駅前にほんのりと明かりをともし、あたたかい拠点となっています。



復活「お福分け」

一時中断していましたが、2025年11月1日・2日に「まちに笑顔のお福分け」として、CiiNA CiiNA 尾張旭さんのご好意により2階特設会場で復活しました。「福FUKU笑い」と「福BOOK朗」の同時開催で、メディアにも取り上げていただき、盛況なイベントとなりました。「福BOOK朗」はまなびば35で継続して本の提供をしています。



復活「まなびば35」

2024年2月に始まった無料学習スペース「まなびば35」は、新たに開業したCiiNA CiiNA 尾張旭さんがプロジェクトのねらいに賛同してくださったことで、無事に復活を遂げました。再開後も中高生を中心に多くの学生が日常的に利用しており、集中できる貴重な場所として活用されています。地域の期待を背負い、今後も街の学びを支える場として活動を継続します。

35フレンズの声



松尾 成昭 さん

35フレンズは、自身の「やりたい」という思いを自由に発信でき、それが受け入れられる場所です。一人では難しくても、それぞれの得意なことを持ち寄ることで、想像もしなかった景色が街の中に生まれるおもしろさを実感しました。興味がある方は、ぜひ一度その場を覗いてみてください。実際に足を運び、活動の空気に触れてもらうことが、新たな繋がりをつくる第一歩になると思います。



浅井 琴葉 さん

小学4年生の頃から長く活動に関わっています。ここは年齢を問わず、どんな意見も「それいいね」と受け入れてもらえる、私にとっての「自分を出せる場所」です。活動を通して、普段の生活では出会えない人たちの考えに触れることで、自分の視野も大きく広がりました。何かを新しく始める楽しさを、ぜひこの場所で感じてほしいです。



三郷駅前まち納め感謝祭

2026年4月29日（水・祝）開催予定

三郷駅前 まち納め 感謝祭とは？

2026年春から住み慣れた我まち三郷駅前の再開
発工がいよいよ始まります。このエリアのたくさ
んの思い出を振り返るとともに、未来への期待と
感謝の気持ちをこめて、まち納めと称した感謝祭を行います。懐かしいに共感するセレモニーと共に、見慣れ
た風景を違う角度から見直す目線=アートの目線で取り組む企画も実施します。より自由に、より自分目線で、ま
ちを捉え直し、面白いを引き出す体験を、より多くの市民に共有したいと思います。



ワークショップの内容

キックオフワークショップ

「まち納め感謝祭」に向けたキックオフを開催しました。
今回の感謝祭は、「三郷駅前再開発エリアに感謝を伝え、思い出を詰
め込むお祭り」をコンセプトにしています。
当日は参加者同士で活発な意見交換が行われ、「盆踊り」「昔と今を比較
する企画」「火花」「宝探し」「感謝の気持ちを書くコーナー」「人文字」
「落書きリレー」など、30を超える多彩なアイデアが生まれました。



企画ワークショップ

「まち納め感謝祭」に向けた企画ワークショップを開催しました。
前回のキックオフで出たおもしろいアイデアを、どう具体化していくか。
会場では、焚き火や、アート、再開発エリアの場所の可能性を生かした
様々なアイデアが次々と飛び出しました。それぞれ出たアイデアに対して
企画に賛同した35フレンズも加わり、それぞれのチームが生まれました。



準備ワークショップ

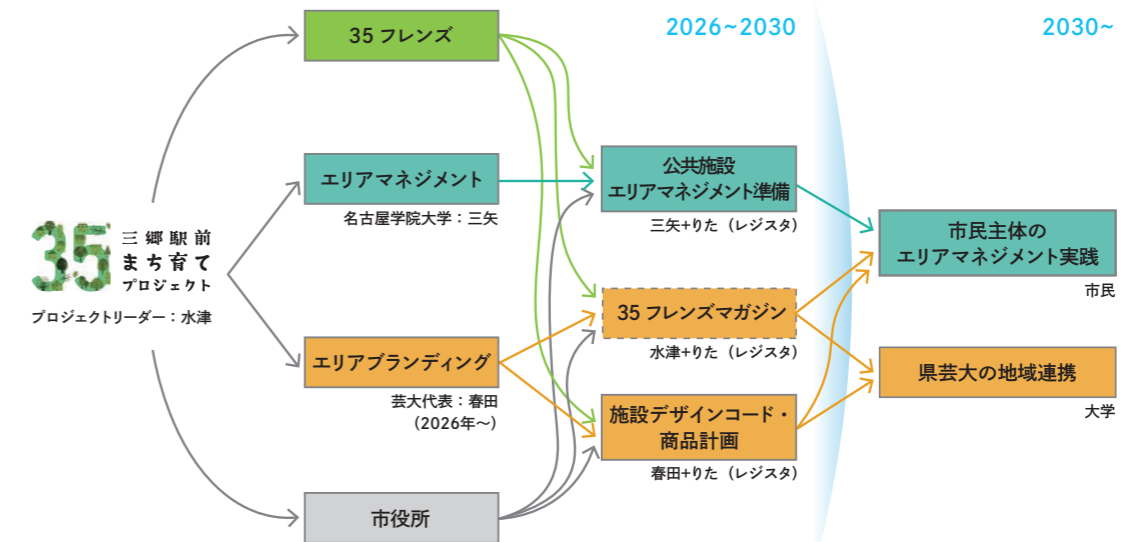
各チームで企画内容を詰めていきました。また、ワークショップ前に
リハーサルを行うチームもあり、本番に向けた制作や準備がいよいよ
本格化してきました。チーム同士で協力し合う意見も生まれ、一体感
が感じられる場となりました。



三郷駅前まち育てプロジェクト 中長期ビジョン

中長期ビジョン

これまでの5年間で振り返ると、2021年から2022年にかけては駅前の未来を考える機会の提供、2023年から
2024年にかけては市民グループ35フレンズを結成し活動を支援してきました。2025年により市民の一人ひとりの個
性に根差したまちづくりへの関わり方を模索するマイパブリックの展開をめざし、パーソナル屋台による35Fesを試みま
した。2026年から2030年に向けては、エリアマネジメントとエリアブランディングの2つの流れを意識した活動を充実
させていきます。



今後の展望について

- ・エリアマネジメント：
三郷駅前周辺における市民の主体的なまちづくり活動を担う組織の自走化を5カ年計画で進めます。2026年は
基盤作りとして求められる人材の再調査と巻き込み、調査や学習などの準備期間、2027年に社会実験を含む事業の
試験的実施、2028年に事業化の確立、2029年に組織や仕組みの確立を目指します。
- ・エリアブランディング：
三郷駅前周辺の物語性のある魅力要素（歴史、産業、文化、生活、自然等）に注目し、それらが市民の誇りとして
感じられるよう顕在化させるために大きく2つの流れを作ります。
1つは、竣工予定の2030年までの間、開発工区に出現する資機材（工事仮囲いなど）を情報発信媒体と捉え直し、市民と
共にまち育てマガジンを企画、魅力要素コンテンツを編集制作する予定です。もう1つは、新しい公共施設が市民に親しまれる
ためのデザインコードの提案や、魅力要素から新たな商品計画を市民と共に進めるプロジェクトを企画する予定です。

三郷駅前まち育てプロジェクトリーダー 水津 功

三郷駅前まち育てプロジェクトの参加方法

① 見る・知る

HPやSNSで、
本プロジェクトの動きを
ウォッチしませんか？
<https://35project.com/>



② 活動に参加する

三郷の未来を考えたい方であれば、どなたでも35フレンズ
にご参加いただけます。ぜひ一緒に活動して、三郷駅を中心
とした尾張旭市全体を豊かなまちに育てていきましょう！
<https://35project.com/wanted-35friends/>

